



部下育成とコミュニケーションの量との関係性

部下を育成するのに、あなたはどのような方法を選んでいますか？

「スキルアップ研修へ参加してもらう」「自分が得てきたノウハウを伝える」など、さまざまな方法が挙げられると思いますが、今回ぜひ試していただきたい方法があります。

それは、あなた自身が「部下とのコミュニケーションの量」を増やすということです。

コミュニケーションというと、人はその質が大切だと考えがちです。

しかし実際には、質はもちろんのこと、量も大きな意味を持っています。

内容は何でもいいのです。仕事の話である必要もないし、問題解決でなくてもかまいません。

とにかく部下と話をすることです。それがマネージャーとしての仕事のほとんどだと言っても過言ではありません。



実際にコミュニケーションの量が増えてくると、職場の雰囲気、部下のやる気、業績など多くの変化が生まれることに気づくことでしょう。コミュニケーションは質も大事ですが、量も大切なのです。

Point

コミュニケーションの量を増やすことで、職場の雰囲気、部下のやる気、業績など多くの変化が生まれてきます。



Coach21 より

古ぼけたカバン②

私は友達が話しかけてきても、うわの空の返事をしながら、みんなのカバンを眺め回しました。

どれもこれも立派なカバン、色とりどりでまるで花園のようです。それにひきかえ、私のカバンは、どんなにみすぼらしく見えたことでしょう。「ああ〜いっそのこと、何も持たないで来たほうがよかった。」



私は、重苦しい気持ちで車中の人となりました。みんな楽しそうに親たちとの別れのあいさつをしています。

しかし、私の母は来ませんでした。私は、母が来なければいいと思い續けていました。母なんか見たくなかったのです。

列車が動き出すと、さっそく皆おしゃべりやゲームをやり始め、とても楽しそうです。

私はカバンを皆に見えないように手で隠しながら黙って座っていました。こんな修学旅行を何年も楽しみにしていた自分がバカらしく思えてきました。「木村さん、お菓子食べようよ。」

山口さんの明るい声にハッと我に返りました。私は少しも欲しくはありませんでしたが、食べないと余計に変に思われるので、仕方なくカバンを開けて、あめ玉を取り出そうとしました。すると、カバンの中に封筒が一通入っていました。

表書きには、「芳子さんへ、母より」とあります。私は、いふかりながら封を切りました。中には、手紙が入っていました。

「芳子さん。あなたには、お母さんは心からすまなく思っています。あなたに、どんなにか新しいカバンを買ってあげたかった事でしょう。でも、どうにもならなかったのです。お母さんは一生懸命努力したけど、どうにもできなかったのです。お母さんはあなたの気持ちがよくわかります。だから心からお詫びします。あなたが辛いだろうと思うので、駅へは見送りには行きません。

家の窓から電車が通るのを見送りたいと思います。同封の二百円は、お小遣いの足しにしてください。お母さんは、これだけが精一杯です。お母さんもあなた以上に悲しいのです。辛いのです。

けど、我慢します。あなたも我慢して下さい。身体に気をつけて、楽しい修学旅行でありますように祈っています。お土産話を楽しみにしています。では、元気にいってらっしゃいね」

私は、急に涙がこみ上げてきました。封筒の中には、お金が二百円入っていました。私は大きな声をあげて泣きたくくなりました。「お母さん いいのよ、いいのよ、私こそごめんなさい、わかままだばかり言って。」今までの辛さも 悲しさも吹っ飛んでしまいました。なんというありがたい

母の心、なんという深い母の愛でしょう。「お母さん 芳子は古ぼけたカバンで十分です。このカバンの中には、何よりも尊いお母さんの愛情が入っているのですもの。私は堂々とこのカバンを振って歩きます。お母さん、ありがとう。」

BY しもやん